

令和2年度使用 茨城県第4採択地区 教科用図書の採択理由書

茨城県第4採択地区教科用図書選定協議会

会長 飯島 郁郎

教科	発行者の番号・略称 教科書名	事 由
国語	2・東書 新しい国語	<p>○日常生活に必要な国語についての特質を理解し、適切につかうことができるようにするために年度当初に書くこと「情報の扱い方」系統の小単元を位置づけ、情報の扱い方における知識及び技能の基礎を身に付け、以後の学習に役立てられるように配慮されている。</p> <p>○日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養うために、見通しを持って学習ができるように学習の流れを明確に示している。「書くこと」では例文の中から必要な情報を読み取り、学習を進められるよう配慮されている。</p> <p>○「読むこと」の後に本の写真を掲載したり、作者へのインタビューや絵本の紹介などをしたりしている。また、生活場面の対話例、敬語の使い方、言語に関する教材を配し、言葉の持つよさを認識させる配慮がなされている。「ことばあつめ」「ことばの広場」をもうけ、言語感覚を養う工夫がなされている。</p> <p>○言葉による見方・考え方を働かせ国語科で目指す資質・能力を育成するために各単元は「つかむ」「取り組む」「振り返る」のステップに沿って育成すべき「言葉の力」を明確にしている。</p> <p>○主体的で深い学びの実現のために各学年の最初に「話すこと・聞くこと」の「対話」の小単元を設け、友達との対話を通じてお互いの考えを広げたり、深めたりする学習を位置づけ、対話的な学びの基礎基本となる力が身に付けられるよう工夫されている。</p> <p>○伝え合う力を高めるため各巻の巻頭に当該学年の「言葉の力」を見通す「○学年で学習する言葉の力」や、1～4年生の下巻の巻末付録には上巻で</p>

		<p>学習した「言葉の力」を振り返る「○上で学習した言葉の力」を設け、「言葉の力」の系統やつながり、伝え合うためのいろいろな方法などを提示している。</p> <p>○単元の構成や教材の配列では、2年生以上の各巻の巻頭に「国語の学習の進め方」を設けるなど1年間で身に付けたい力を見通すための単元を配列し、年間を通して「何をどのように学ぶか」が見通せるような単元の配列が見られる。学習の基盤となる知識や技能を「おさえる」として明示している。また、課題解決的に学習を展開できるような単元が「つかむ」「取り組む」「ふり返る」で構成されている。</p> <p>○単元や教材の分量は、各領域の指導事項をもれなく、バランスよく育成できるよう領域ごとに適切な系統を設け、全学年を通じ系統的に取り扱っている。</p> <p>○用語や記号、レイアウト等について脚注に難解語句についての説明があり、新出漢字は青枠で囲まれわかりやすく表記されている。巻末に新出漢字の読み方や筆順がまとめられてあり、例語や使い方が複数示されている。</p> <p>○写真や挿絵、図表等について色覚の多様性に配慮され、色だけで区別・判別する表現を避け、必要に応じて色以外の情報を加えて全ての児童が見やすい紙面となるよう配慮されている。</p> <p>○装丁や使用しやすさについては、本文には見やすく、文字の指導に教科書体を独自に開発し使用しており、また、読み書きにつまずきを抱えやすい児童を支援する指導モデル(MIM)を生かした特殊音節の指導が取り入れられており配慮がされている。</p>
--	--	--